

きらり

第3号では、各学部の1年間の取組の様子と多良木町子ども人権作品学校巡回展に出品した作品を紹介します。

❀小学部の取組❀

「ともだちと ちからをあわせて いれよう！」

友達と協力する良さや大切さについて考える学習をしました。学習のはじめに近くの友達と手をつなぎ、小学部の人権テーマソング「手をつなごう」を歌いました。その後、人権は「みんな、うまれてからずっともっているたいせつなもの」などとイラストを使って話をすると、子供たちから「いのち!」という発言があり、人権学習を積み重ねる中で、子供たちの中に少しずつ意識が芽生えてきているのを感じました。その後は、友達とペアになり、協力してボールを渡し、カゴへ入れるゲームに取り組みました。「せーの」と声を掛け合ったり、友達のペースに合わせてたりするなど、最後まで友達と一緒に協力しながら活動する姿が見られました。

❀中学部の取組❀

「職場と人権～きもちよく働こう～」

相手も自分も気持ちよく過ごすための関わり方について学習しました。授業では、挨拶を無視されたり道具を取られたりする動画を見て、嫌なことをされた立場の気持ちについて「自分がされたら嫌だ」と考えることができました。その後、相手が嫌な思いをしない言い方や行動を意識して友達とやりとりする練習に取り組みました。授業後の活動では、他学年と交流する際に「〇〇さん頑張ってるね」と温かい言葉を掛けたり、作業学習の際に「お願いします」「お疲れさまでした」等の気持ちのよい挨拶をしたりする姿が増え、思いやりのある関わりが広がっています。

❀高等部の取組❀

「人権について考えよう」

年間を通して、学年ごとに様々な人権問題を学習しました。1年生は、「インターネットと人権」「子どもの権利条約」「プライバシー権」、2年生は、「現代の人権」「感染症と人権」「北朝鮮拉致問題」、3年生は、「水俣病問題」「統一応募用紙」「部落差別(同和問題)」を学習しました。また、学部集会の中で、SNSトラブルやいじめ問題について考えました。すべての学習を通して、それぞれの問題を自分の事として捉え、自分や周りの人の権利が守られていない状態があれば、それに気づき、信頼できる大人に相談できる力を身に付けることの大切さを学びました。



多良木町子ども人権作品学校巡回展

1月に、本校で「多良木町子ども人権作品」の巡回展が行われました。多良木町にある学校の児童生徒が考えた差別やいじめの防止、相手を大切にすることを表現した人権標語と人権絵手紙が展示されました。

本校からも多くの児童生徒が応募をしました。その作品の一部をご紹介します。

- 【標語】
- ※児童生徒が書いた字をそのまま表記しています。
- その命 一人一つのおくりもの
 - ありがとう その一言がうれしいな
 - 思いやり あふれる町に やさしい言葉
 - 傍観者 いじめの 共犯者
 - きもちをつたえると ところが かるくなるね
 - ひだまりの ようなえがおで なかよくしよう
 - ぼくのおもい かぜにのせて きみにとどけ
 - 心が傷つく 暴言暴力は やめよう
 - 他人とは 自分を映す 姿見だ
 - 悪口は 人の心を 傷つける
 - 心の傷 必ず治るとは 限らない



【絵手紙】

